

Infinity Vol.06

～大学と地域の協働力は無限大∞～

2021.3.10 発行

発行元
龍谷大学 社会学部
社会共生実習支援室

〒520-2194
滋賀県大津市瀬田大江町横谷1-5
龍谷大学瀬田キャンパス内
社会共生実習支援室

TEL:077-544-7230
FAX:077-543-7615

E-mail:co-ex@ad.ryukoku.ac.jp



「いつになっても、出かけられる！～高齢者を元気にする介護ツアー企画～」
ツアー先の近江八幡市内にて下見を実施

子どもたちにお正月遊びをレクチャー

1月9日(土)、「雑創の森プレイスクールプレイワーカー」(担当教員:コミュニティマネジメント学科 久保和之准教授)の受講生4名が京都府京田辺市の雑創の森プレイスクールで、子どもたちの遊びを支援する現場実習をおこないました。午前中はプレイスクールの歴史や理念を学び、活動エリアの点検もおこないました。午後からは森の中で基地づくりや大縄跳びをするグループとコマ回しや羽根つきなど、お正月遊びをするグループに分かれて活動しました。参加した子どもたちは、実習生とともに遊び「頼りになるね」などの感想があり、受講生たちは満足そうな様子でした。

1年間の活動を終えて受講生からは「子どもとの関わりとおして学ぶことが多くあった」「研究とかではないため、形に残るものはないが、糸鋸やナイフを使うことで身につく技術や子どもたちとの思い出はたくさんできた」と、このプロジェクトならではの学びを得て、成長したことが伺えました。

類似の問題に取り組んできた他地域のリーダーにインタビューを重ね、課題の改善に向けて、「各種団体の活動内容を可視化すること」、「小・中学生を対象に地域学習の場を設けること」、「定年を迎えた方々への地域活動の呼びかけをすること」の3つが必要ではないかとの提言をおこないました。



▲ 大津市中央地区・瀬田東学区のお世話になった方々と記念撮影! 大変お世話になりました。

「大学社会共生に何ができるのか - 文俱から“マネー”を創出する」報告会を開催

2月25日(木)、「大学は社会共生に何ができるのか-文化財から“マネー”を創出する」(担当教員:高田満彦教授・猪瀬優理准教授)では、2年間の集大成として「文化財プロジェクト年度末発表会」と題した報告会をおこない、実習でお世話になった大津市の有識者の方々と、交流のある愛媛大学の方々を中心に20名の参加者が4つのグループに分かれて「大津の現状・問題点・解決策」などについて議論をし、発表しました。

「大津の活性化にはイメージづくりが大事」「SNSで映えるスポットをつくる」「各自治会単位で行える伝統行事の地蔵盆で接点を持つ」「三井寺で和装縛りのハロウィンパーティーを行う」など活発な意見に溢れ、大変有意義な時間となりました。

都市計画課としての「観光」への考えは、京都のお祭りを狙うのではなく、祭りの高い人々をターゲットとした。観光客には、「観光」が主で、「日常を楽しんでもらう」がキーワード。地域住民の生活を維持しながら生活レベルを高めその中で観光へつなげたい。(アメリカのポートランドのような街づくり)。

大津の現状

都市での生活というのがあるからではない。現状として、イメージとかは観光客に行きまわるといってしまいがち。大津から大津への移動も大切になってくる。今の大学の関係や人の流れとしては、使われていない町屋 → 建てる → マンション建てる → 人がすぐ増える → 住人は増える結果のところ、華なるベッドタウン的な側面が強くなってきている。



▲ 大津についての議論

▲ 報告会の様子



▲ 羽子板作成の様子



▲ 手作り羽子板で羽根つき!

「大津エンパワねっと」報告会を開催

1月16日(土)、「地域エンパワねっと」(担当教員:脇田健一教授、築地達郎准教授)では、2020年度の後期報告会をオンラインで開催し、受講生が1年間の成果を報告しました。

大津市中央地区で活動した学生からは「場所づくり・思い出づくり」と題して、主に新型コロナウイルス感染症拡大にともなって地域イベントが中止となった子どもたちの思い出づくりに「ランタンイベント」を企画していること等を発表しました。

大津市瀬田東学区で活動した学生は、各種団体が抱えている「担い手不足」問題に取り組まれました。地域団体の役員の方々や

2020年度「社会共生実習」活動報告会

1月8日(金)に社会学部「社会共生実習」全プロジェクトの活動報告会をオンラインで開催しました。当日は各実習の連携先の方もご参加下さり、受講生たちの発表に熱心に耳を傾けてくださいました。各プロジェクトからの報告内容を簡単にご紹介いたします。

地域エンパワねっと

本プロジェクトからは、大津市瀬田東学区と大津市中央地区で活動を進めてきた2チームによる報告がなされました。
・瀬田東チームでは瀬田東学区自治連合会会長の仲川欣伸氏へのインタビューや執行役員が集う三役会議の参加などを経て、「担い手不足」という地域の課題を発見しました。そこで、担い手不足解消のモデルケースとなる大津市平野学区にある『平野コミュニティーセンター』の久保敏彦氏や各種団体の会長にインタビューをおこなった上で、今後の課題解決に向けての取り組みの提案をしました。今後、地域の方とともにその提案を具体的に活用していけたらと考えています。

・中央チームでは、大津市が管理しているコワーキングスペース『まち家オフィス結』(以下、まち家オフィス)や『中央市民センター』で話を聞く中で、「コロナ禍で失われた地域の人たちのつながり」という課題を発見しました。この課題に対し、何か新しい企画ができないかと考え、2つのイベントを企画しています。

1つ目は「スカイランタン」イベントです。子どもたちに何か良い思い出を残したいという地域の方々の想いをもとに企画しました。実施は3月下旬を予定しています。2つ目は「図書館プロジェクト」です。まち家オフィスを、地元の方に気軽に利用してもらえるよう、オフィス内に本棚を設置し、地域の方々に本や漫画などを持ち寄ってもらい自由に読んでもらおうと考えています。地元の方に喜んでもらえるようなイベントを目指して準備を進めていきます。

雑創の森プレスクールプレイワーカー

財団法人プレスクール協会が運営する『雑創の森プレスクール』にて、子どもたちに「創造的な遊び場の提供」を、チーフである福山直哉氏のご指導のもとおこなってきました。周辺の豊かな自然の中で鬼ごっこやザリガニ釣りをしたり、木を切って工作したり、季節ごとのイベントにも参加しました。また、山に自生する植物のことや、山や川の危険についても学び、子どもたちにも教えてきました。受講生たちは、様々な活動にリーダーとして関わる中で、子どもたちから頼られる存在へと成長し、「子どもたちとの触れ合い方」を学ぶことができたと言ってくれました。

大学は社会共生に何ができるのか—文化財から“マネー”を創出する—

昨年度より文化財をとらえて、地域社会の利点や課題を、滋賀県大津市を中心として調査してきました。専門家の方々からの講話を聞きフィールドワークを何度もおこなう中で受講生たちは「文化財が生活圏に溶け込んでいるが、観光事業と住民の意識がかみ合っていないため、活用しきれていない」という現状に気づきました。

そこで、まずは地域住民が大津の偉大な歴史・文化の町としての誇りを創出し、「大津だからこそ」の暮らしや楽しさを歴史や文化から見出すことによって、文化財の維持、加えて持続可能なまちづくりにつながるのではないかと考えました。次年度は、文化財を活用したイベントの実施を予定しており、それに向けて準備を進めていきます。

伏見の食材を活かした特産品づくりと地域連携

本プロジェクトでは、京都伏見ゆかりの食材を使い、農業者、食品流通業、行政など地域の方々と協力しながら、伏見ならではの「一品」を創ることを目指して活動しました。

今年度は「この7食から伏見を知ろう」をテーマに1週間分の献立の提案を試み、地元の農家などを訪問し、取材や収穫体験もおこないました。献立には、伏見の特産物を使用した米粉ピザや川魚定食、海老芋や菊芋などの京野菜を使ったカレーなどがあります。連携先の方から教えていただいたヒントや意見をもとに提案した献立は、インスタグラム<URL https://www.instagram.com/r_coexistence/>で公開し、リーフレットやレシピ本も作成しました。リーフレットとレシピ本は学内や伏見地域内各所にも置いています。

いくつになっても、出かけられる！～高齢者を元気にする介護ツアー企画

高齢者の方が抱える課題に配慮し、高齢者の方でも楽しんでいただける日帰りツアーを企画、実行することを目指して活動してきました。企画するにあたり、『株式会社どこでも介護』の代表・大西友子氏と橋本英司氏から高齢者と接する際に配慮することなどを学び、実際に高齢者の方へ「どのようなところへ行きたいか」などのインタビューもおこないました。その後、受講生は2グループに分かれ、それぞれツアー企画を立案して下見し、高齢者の方目線で検討を重ね、最終的に滋賀県近江八幡市の水郷めぐりとかわらミュージアムに行くことに決めました。ツアーは3月下旬に実施予定をしていますので、感染症対策にも万全を期して、準備を進めていきます(後日、新型コロナウイルス感染症の影響によりツアーの実施を見送ることに決定いたしました)。

多文化共生のコミュニティ・デザイン～定住外国人にとって住みやすい日本になるには？～

日本の人口の2パーセントを占める在日外国人について理解を深め、より住みやすい日本にしていくにはどうすればよいのかを考えてきました。

前期は、オンラインで在日朝鮮人やそのご家族の方にインタビューをおこない、今までの苦労や日本に対して感じていることなどをお聞きしたことで、日本社会全体ではまだまだ在日外国人に対する理解が不足していると感じました。

後期では、『NPO法人京都コリアン生活支援センターエルファ』の副理事長・南珣賢氏のご協力のもと、在日1世のチョンゲソンさんに直接お会いしてインタビューをおこないました。チョンゲソンさんは、差別を受けた経験などの辛い過去のお話もしてくださいました。

受講生はこれらの活動をとらえて、在日外国人の方への差別はまだ続いていることや、自分には関係ないとするのではなく、知ろうとする姿勢と助け合うことが重要だと気づきました。そこから同世代の学生に対する啓発動画を作成し、発表をおこないました。

Webサイト・SNSでは最新の情報を随時更新中♪ ～2021年度の活動にもご期待ください！～



社会共生実習
Webサイト



社会共生実習
Twitter



社会共生実習
Instagram



社会共生実習
Facebook



エンパワ
Twitter



古荘プロジェクト+α
Facebook



古荘プロジェクト
Instagram



坂本プロジェクト+α
Facebook